

創刊にあたって

福井県文書館は、平成15年2月1日に開館しました。福井県が歩んできた歴史を知る上での貴重な資料である公文書・古文書その他の資料を収集・保存するとともに、これらを広く一般に公開して、利用者の歴史研究・生涯学習に活用していただく施設として、県内で初めての開館となります。

文書館では、行政の必要に応じて作成された公文書で、歴史的な価値を生じると考えられるものを収集、適切な環境で保存しております。また、置県100年記念事業として行われた福井県史編さんにおいて調査・撮影された古文書や新たに発見された古文書についても、調査・研究のうえ公開しております。

このため、文書館の業務として、こうした文書等の収集・保存・公開とともに、これらの前提となる文書等の調査・研究が大きな柱となっております。文書等の歴史的意義をはじめ、文書等の相互の関連については、その作成の過程や内容の調査・研究が不可欠であり、これらのことが基礎となって利用者に文書館の文書等を効果的に利用していただくことができるのです。

こうした日常の調査・研究活動の成果については、文書館が行っております展示・講座・講演等を通じて生かされてきましたが、今回、文書館が取り組んでおります調査・研究の成果を発表する場として、『研究紀要』を発刊することとなりました。

これにより職員の資質の向上を図るとともに、研究論文の発表や保存する文書等の紹介により文書館の業務に対する理解を深めていただき、より一層利用が促進されることを期待しております。

また、『研究紀要』では、文書館の職員だけでなく、文書館で講演等をお願いした方々にも御協力をいただき、講演記録、論文等を掲載させていただきます。この『研究紀要』を通じて、できるだけ幅広い視点から利用者の歴史研究・生涯学習に役立てていただけるよう編集してまいります。第1号には、開館記念講演をお願いした京都大学大学院教授、文書館記録資料アドバイザーである藤井讓治先生の講演録その他を掲載いたしました。

今後とも文書館にふさわしい調査・研究活動を積み重ね、この『研究紀要』においてその成果を問いつける中で、本県の学術の振興および文化の向上に少しでも寄与できれば幸いです。

文書館では、「開かれた親しみのある文書館」を目指して、利用者の歴史研究・生涯学習に役に立つ事業を積極的に展開してまいりたいと考えておりますので、引き続き御支援、御協力をお願いいたします。

平成16年3月

館長 佐々木 正 博